

公共事業再評価調査書

整理番号 H15 - 9

担当部課室名	農林水産部 農村整備課	電話番号	017 - 734 - 9554
		E - MAIL	NOSONSEIBIKA @ags.pref.aomori.jp

再評価実施要件	未着工	長期継続(5年)	再評価後(年)	その他 ()
---------	-----	----------	----------	---------

1 事業概要

事業種別	農業農村整備事業	事業主体	県	市町村	その他()			
事業名	県営地域用水環境整備事業	地区名等	豊岡	市町村名	中里町			
事業方法	国庫補助 県単独	財源・負担区分	国50%	県25%	市町村25% その他 %			
採択年度	H10年度(用地着手 年度 / 工事着手 H11年度)							
終了予定年度	H17年度(H 年 月計画変更 当初計画時 H14 年度)							
事業目的	中里町豊岡集落を南北に流下する旧烏谷川は、S18~44に国営十三湖干拓事業で改修された農業用排水路である。しかし、S49からH3に「新河幹線排水路」が新設され、一部排水機能の切り替えが行われ流量が極端に減少したことにより、集落環境が著しく悪化している。このため、本事業により排水路等の施設の保全・改修を行い、水辺空間を活用した豊かで潤いのある生活空間を再生し、地域住民の連帯意識を醸成するものである。							
主な内容	親水景観施設 水路工2,663m (植生水路958m、フトン竈水路工1,705m) 利水保全施設 園路工990m							
事業費	採択時総事業費 800 百万円 (単位:百万円)							
		~12年度	13年度	14年度	15年度	小計	16年度~	合計
	計画 (うち用地費)	210 ()	180 ()	100 ()	130 ()	620 (0)	252 ()	872 (0)
	実績 (うち用地費)	210 ()	180 ()	100 ()	130 ()	620 (0)	252 ()	872 (0)

2 評価指標及び項目別評価

(1) 事業の進捗状況

(A) · B · C

事業の進捗状況	事業費割合 (うち用地費)		計画全体に対する進捗	年次計画に対する進捗
			71.1% [/]	100% [/]
			(- %) [/]	(%) [/]
主要工種毎割合 (事業費)	親水景観施設 (761百万円)	延長割合	81.7%	100%
	利水保全施設 (111百万円)	延長割合	100%	100%
説明	中里町の財政事情を勘案しながら事業を実施しており、平成17年度で完了する見込みである。			
問題点・ 解決見込み				
事業効果 発現状況	集落内のフトン竈水路が全区間で完成しており、すでに事業効果が発現している。			

(2) 社会経済情勢の変化

(A) · B · C

社会的評価	全国・本県における評価	【全国の評価】 農村における都市化・混住化の進展に伴い、農業水利施設の有する環境の保全などの多面的機能について、国民の関心が高まってきていることから、本事業などによるその機能の増進が必要となっている。	【県内の評価】 県内においても、農業水利施設の有する自然環境や景観等の多面的機能の保全・回復に対する理解が深まってきていることから、事業の必要性が高まっている。
	当地区における評価	豊岡集落の住民は旧烏谷川に親しみながら生活してきたことから、近年悪化しつつある生活環境を、水辺空間を活用した豊かで潤いのある生活空間に再生することが強く求められており、施設整備の早期完成が望まれていることから、本事業による整備が必要である。	
必要性	経年変化による排水路や木橋の老朽化等により生活環境が悪化しており、地域住民からは排水路の改修が要望されていた。そこで、中里町の活性化を図る基本方針「快適に暮らせる環境づくり - 生活環境基盤の整備の推進」に基づき、水辺空間を活用した豊かで潤いのある生活空間を整備するため、本事業を重点的に進めることとしたものである。		(a) · b
適時性	本事業は、町が事業主体となっている農業集落排水事業(H6~H10)、町単独道路改良工事(H16~H19 集落内町道舗装改修)と併せ、生活環境を一体的に改善するものである。		(a) · b
地元の推進体制等	本施設の整備については、以前から地域住民より強く望まれていたものである。平成10年度に町と地域住民による「豊岡地区水環境施設整備事業推進委員会」が設立され、事業説明会や字ごとの座談会等による地域住民との意見交換を重ねており、事業実施及び維持管理に対する合意形成が図られている。維持管理については、町が施設の管理主体となり、地域住民は草刈、清掃等の日常の管理業務を行っている。推進委員会の活動を通じて町が積極的に支援していることから、今後の事業実施における障害はない。		(a) · b
効率性	農業水利施設の有する自然環境や景観等の多面的機能の保全・回復を通じ、生活環境の向上と地域住民の連帯意識の醸成に資する。		

(3) 費用対効果分析の要因変化

A ・ B ・ C

区分	主な項目	計画時	再評価時	増減
費用項目 (C)	(1)	百万円	百万円	0 百万円
	(2)	百万円	百万円	0 百万円
	(3)	百万円	百万円	0 百万円
	(4)	百万円	百万円	0 百万円
	(5)	百万円	百万円	0 百万円
	総費用	- 百万円	- 百万円	0 百万円
便益項目 (B)	(1)	百万円	百万円	0 百万円
	(2)	百万円	百万円	0 百万円
	(3)	百万円	百万円	0 百万円
	(4)	百万円	百万円	0 百万円
	(5)	百万円	百万円	0 百万円
	総便益	- 百万円	- 百万円	0 百万円
B / C				
【費用対効果分析手法】 (分析手法、根拠マニュアル等)				
【費用対効果分析における特記事項】 本事業は、土地改良法によらない事業であることから、B / Cの算定を行っていない。				

(4) コスト縮減・代替案の検討状況

(A) ・ B ・ C

コスト縮減	【コスト縮減の検討状況】 水路沿いの一部区間に、木製デッキによる管理用道路(園路工)を設置することとしたが、水路の線形を見直した結果、道路幅員の確保が可能となったことから、木製デッキを削除しコストの縮減ができた。	(a) ・ b
代替案	【代替案の検討状況】 水路の形状の決定に当たっては、経済性や景観、維持管理の容易性、動植物に与える影響、軟弱地盤処理対策の面から「大型水路(L型水路)」、「ブロック積み水路」、「板柵水路」、「フトン籠水路」の4タイプについて比較検討を行なった結果、総合的に有利なフトン籠水路としたものであり、妥当である。	(a) ・ b

(5) 評価に当たり特に考慮すべき点

(A) ・ B ・ C

住民ニーズの把握状況	【住民ニーズの把握方法】 平成10年度に「豊岡地区水環境施設整備事業推進委員会」が設立され、事業説明会及や字ごとの座談会等の開催により、住民のニーズの把握に努めている。	【住民ニーズ・意見】 経年変化による排水路及び木橋の老朽化等により環境が著しく悪化しており、地域住民からは排水路の改修、木橋の架け替えや緑化等の周辺環境に配慮した集落環境の改善が要望されている。	(a) ・ b
環境影響への配慮	【地域別環境配慮指針への対応】 (1) 地域区分 Tn3d (2) 対応状況 配慮している 配慮していない	【開発事業等における環境配慮指針への対応】 配慮している 配慮していない	(a) ・ b
地域の立地特性	【特記事項】 水路はコンクリート構造や底張りを避けフトン籠により魚類が生息できる環境を確保するとともに、露出部分の全てについて緑化を行い、動植物の生息環境に配慮した。 過疎、半島振興対策地域指定		

3 対応方針

総合評価	継続	計画変更	中止	休止 (林政課及び漁港漁場整備課所管事業に限る)
評価理由	本事業は、農村の生活環境の改善を通じ、地域の連帯意識の醸成等に資することから、完成に向け継続して実施する。			
備考				

4 公共事業再評価審議委員会意見

委員会意見	対応方針(案)どおり	対応方針(案)を修正すべき		
委員会評価	継続	計画変更	中止	休止 (林政課及び漁港漁場整備課所管事業に限る)
附帯意見				
評価理由				